

# 閑中忙

## 障害者の人権

▼「目が不自由な人にとつての交通信号機は、音響誘導式以外のものは役立ちません」

「車いすの人は災害時、車いす用トイレがない避難所を利用できません」

▼社会の仕組みや安全システムには障害者の存在を考えない発想のものが多く多いことか。各種施設などにある階段や段差を前にすると「その先への立ち入りを拒否されているように感じます」▼自ら車いす生活をしている東俊裕・熊本学園大教授（弁護士）の話は、日ごろ健常者がつくる数々の「社会的障壁」に気付かされてショックだった。室蘭言泉学園開設70周年記念講演会（1月27日）でのこと

▼熊本地震の際には支援物資を受ける被災者の列ができた。「並んだ人だけに配給される。並べない障害者がいることを説明して2人分を求めても『平等』を盾に拒否された」という事例も▼これまで福祉制度などの充実に力が注がれてきたが、地域社会の意識変革は進んでいない。特に災害などの非常時には、弱者への対応が後回しにされる。障害者の人権は、健常者の「善意」にまだ頼っている現実がある▼「共生社会」とは障害を持つ人が地域にいて当たり前の社会のこと。善意や思いやりを超えた、その先の社会システムづくりが遅れている。（忍）